

競 技 注 意 事 項

1 本大会は平成27年度日本陸上競技連盟規則および本大会要項に従って行う。

2 競技者の招集について

- (1) 選手招集場所は、下記表を参照すること。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、全てその競技の開始時刻を基準とし、下記の通りとするが、出場人数によって変更もあるので、タイムテーブルを確認すること。
競技者係の所に集合しチェックを受ける。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	招 集 場 所
ト ラ ッ ク 競 技	3 5 分前	2 0 分前	第 4 ゲート外 (200Mスタート地点スタンド裏)
フ ィ ー ル ド 競 技 (棒 高 跳 び)	6 0 分前 (4 5 分前) 7 5 分前	4 5 分前 (3 0 分前) 6 0 分前	同 上

(3) 招集方法

- ア 競技者は出場種目の招集開始時刻がきたら招集場所にて自分のナンバーカードを競技者係に示し、種目名・組・レーンのチェックを受ける。準決勝・決勝の場合は事前に組・走路などを確認しておくこと。(招集場所の掲示板に掲示してある)
- イ チェックを終えた後も勝手に招集場所を離れないこと。移動は全て競技者係の誘導による。
- ウ 他種目と兼ねて出場する競技者については、競技者自身または監督から、その旨を競技者係及び審判員に申し出て、出場を確認を受ける。
- エ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなす。
- オ 四種競技者は、最初の種目のみ競技者係で点呼を受け、次の種目からは種目毎に混成競技者係による点呼を受ける。

3 トラック競技について

- (1) 同じ種目でも、組によって招集時刻が異なるので注意する。
- (2) トラック競技の出場者は、スタート前に競技者係より腰ナンバーカードを借り受け、短パンの右腰やや後ろにつける。フィニッシュ後、係の指示に従い返却する。
- (3) 事故防止のため、短距離ではフィニッシュ後も自分のレーン(曲走路)を走る。
- (4) リレーのオーダーは1組目招集完了時刻の60分前までに競技者係に提出するものとする。時間までに提出されない場合は棄権とみなす。
リレーではバトンパスが終わったら、自分のレーンのマークをはずすこと。なお、マークは主催者側で準備したものを使用すること。
- (5) トラック競技の準決勝・決勝の走路順は本部抽選とし、招集場所に掲示する。
- (6) トラック競技のプラスアルファが、規定数より多いときは本部にて抽選とする。
- (7) 男女1500m決勝は16名で行う。
- (8) 男女800m予選と3000mは、安全面を考え階段スタートで行う。

4 フィールド競技について

- (1) 走高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。(当日の天候などによる変更有り)
男 子 走高跳 (練習 1 m45) 1 m50(以後 5 cm上げ) 1 m70以後 3 cm上げとする
女 子 走高跳 (練習 1 m25) 1 m30(以後 5 cm上げ) 1 m45以後 3 cm上げとする
- (2) 四種競技の走高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。(当日の天候などによる変更有り)
男 子 走高跳 (練習 1 m35) 1 m40 1 m45(以後 3 cm上げ)
女 子 走高跳 (練習 1 m15) 1 m20 1 m30(以後 3 cm上げ)
- (3) 棒高跳びのバーの上げ方は次の通りとする。
2 m40開始 — 2 m60 — 2 m80 以後10cm上がり
- (4) 走幅跳と砲丸投については予選を行う。予選通過標準記録は下記の通り。
男 子 走幅跳 6 m50 砲丸投 13m00
女 子 走幅跳 5 m40 砲丸投 12m50
- (5) 走り幅跳び、砲丸投げにおける計測ラインは以下の通りとする。(当日の天候などによる変更有り)
男 子 走幅跳 5 m00 砲丸投 7 m50
女 子 走幅跳 4 m00 砲丸投 7 m00
- (6) 予選通過の標準記録を越えた者が12名に満たない場合は、上位から12名および12番目と同順位の競技者を決勝に出場させる。
- (7) 四種競技について、トラック競技はプログラム記載順で行い、フィールド競技の試技は3回とし、指定された順番で行う。ただし、最終種目における組み合わせは、それまでの得点の順に番組を編成する。
- (8) 走り幅跳びの予選および走り高跳びは各1・2ピットを使用する。また、走り幅跳びの予選においては、出場者数により2組の時間差スタートすることもあり得る。

5 その他

- (1) 8位までの入賞者には賞状を授与し、優勝者にはバッジを授与する。
- (2) 表彰は決勝終了後ただちに行うので、3位までに入賞した競技者はそのまま本部前に集合すること。4位以下の競技者は1Fホールまで取りに来ること。他種目と重なって出られないときは代理の者を出すこと。
- (3) 競技者以外の者は、絶対に競技場内に立ち入らないこと。(特に本部前、フィニッシュ付近は通行禁止)
- (4) ウォーミングアップは補助競技場で行い、安全に留意させること。
(主競技場は1日目、7:00~8:15まで、2日目、7:00~8:30まで開放する。)
- (5) リレーの練習で使用したマークは、各団体が責任をもって処分する。自分のゴミは、持ち帰ること。(ボトルや缶も必ず持ち帰ること。ゴミ箱は使用できない。) 補助競技場も同様とする。
- (6) スタート・フィニッシュ付近では静かにする。
- (7) 400m以上の競技では、準決勝は行わない。また、400mと800mにおいては、A決勝・B決勝の2つの決勝を行う。
- (8) 1500m以上の競技の予選は、スタートから次に示す時間(当日の天候などによる変更有り)まででレースを終了する。
また、1500m予選では1100m地点、3000m予選では2600m地点において制限時間を設け、その時間内に各地点に到達しない者もレースを終了とする。
1年男子1500m 6分00秒(1100m 4分20秒) 2・3年男子1500m 5分30秒(1100m 4分00秒)
共通男子3000m 11分00秒(2600m 9分30秒) 共通女子1500m 6分00秒(1100m 4分20秒)
(各組12名は残す) 打ち切りポイント 制限時間
- (9) 競技の進行上、競技開始時刻などに変更が出る場合もあるので、放送を聞きもらさぬように注意すること。
- (10) 競技場および補助競技場に練習用の個人器具を持ち込むことは禁止する。(棒高跳びのポールを除く)
- (11) 撮影禁止エリアを設定しているので注意すること。
- (12) 主競技場のメインスタンド、メインスタンド裏はテントの設置は禁止とする。テント等を設置する場合は、サイドまたはバックスタンドは可とするが風で飛ばされたりしないよう十分注意すること。(雨天時の対応は当日、指示します。)

6 補助競技場に関して

- (1) 補助競技場の開放は8:15~16:45までとする。開放中は事故のないように各自、各学校注意をすること。
- (2) 補助競技場は安全確保のため、走高跳び、棒高跳び、走幅跳び砲丸投げピットは開放しない。
- (3) 1, 2レーンは周回レーンとし、ホームストレート3, 4レーンはスタートダッシュレーン、5, 6レーンは100mHレーン、7, 8レーンは110mHレーンとする。バックストレートは3, 4レーンをリレー・短距離レーン、5, 6レーンはスタートダッシュレーンとする。
- (4) 外周のフェンスに寄り掛かったり、乗り越えたりする行為は禁止とする。補助競技場にテントなどを設置する場合は、フェンス外側の芝生部分(斜面)の定められた場所のみとする。(表紙裏参照)
- (5) 補助競技場の芝生部分は体操やJOG、流し、ドリルなどの練習は可とするが、スパイクでの練習や用具を使った練習は禁止する。
- (6) 補助競技場には放送が入らないので十分注意すること。

※ 補助競技場(サブトラック)の使用方法について

ホームストレート

1レーン	周回
2レーン	周回
3レーン	スタート練習(スタプロ設置)
4レーン	スタート練習(スタプロ設置)
5レーン	100mH
6レーン	100mH
7レーン	110mH
8レーン	110mH

バックストレート

1レーン	周回
2レーン	周回
3レーン	リレー練習(第1・2コーナー中間点 ~ 第3・4コーナー中間点 ▲)
4レーン	リレー練習(第1・2コーナー中間点 ~ 第3・4コーナー中間点 ▲)
5レーン	スタート練習(スタプロ設置)
6レーン	スタート練習(スタプロ設置)

▲コーン設置場所

フィールド内

使用禁止	走高跳・棒高跳・走幅跳・砲丸投のピットは使用できません。 (芝生内は体操・JOG・ドリル・流しなどは可とする。)
------	---

- * 私物器具の持ち込みは基本的に禁止する。
- * 競技者、監督、コーチ以外の立ち入りを禁止する。
- * 事故のないように注意して使用すること。